

NO!

薬物乱用

薬物ってなに？ PART2



発行／全国読売防犯協会 協力／警察庁、警視庁、内閣府、厚生労働省薬物乱用防止啓発事業事務局、東京都福祉保健局、日本薬物対策協会

薬物についての様々な情報が、ちまたにあふれています。間違った情報に振り回されないでください。
薬物乱用という“わな”を避けるためには「薬物の真実を知る」必要があります。
本冊子を参考に薬物乱用の怖さを知る一助になれば幸いです。



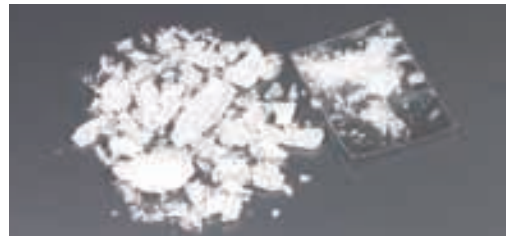
薬物Q&A

Q かくせいざい 覚醒剤ってどんな薬物？

非常に作用が強く依存性の高い人工の興奮剤で、攻撃的、暴力的、あるいは精神異常的な行動を引き起こします。

隠語（覚醒剤を表す別名）

スピード、S(エス)、シャブ、アイス、氷など。



【覚醒剤の使用者】



2年半後



Q 大麻（マリファナ）ってどんな薬物？

時間感覚や視覚、聴覚など知覚が歪められます。
記憶力や学習能力も低下し、長期的に使用すると精神異常の症状が起こります。

隠語（大麻を表す別名）

草(93)、ハッパ、野菜、ガンジャ、海外ではポット、ウィードなど。

【元常用者の話】

親友から「マリファナ1本、ビール1本飲むほどの度胸もないのか」とけしかけられ、いたずら気分で使い始めた。14歳の時だった。それから依存は行きつくところまで行ってしまった。もはや高揚感を感じることもなく、幾分かでも正気に戻ったように感じるためだけに使っていた。



Q MDMAってどんな薬物？

興奮剤の作用があり、幻覚剤を含んでいることもあります。抑うつや混乱、激しい不安、被害妄想、精神異常といった状態に陥ります。

隠語（MDMAを表す別名）

エクスタシー、バツ(X)、タマなど。



Q 危険ドラッグってどんな薬物？

幻覚・興奮作用を引き起こす化学物質が含まれている、人体に非常に有害な薬物です。摂取後に心身に及ぼす影響は全く予測不能です。「アロマ」「ハーブ」「お香」「クリーナー」「合法ドラッグ」などと称して販売されていますが、死亡事件も起きるほど危険な薬物です。



化学物質が染み込んだ植物片



化学物質が含まれた危険ドラッグ(液体)



粉末状(パウダー)の危険ドラッグ

【危険ドラッグによる事件例】

2014年6月、東京都豊島区の繁華街で危険ドラッグを吸った男性(当時37歳)が、自動車を暴走させ7人が死傷した。

写真協力：東京都福祉保健局

Q 向精神薬などの処方薬乱用って何？

鎮痛剤、精神安定剤、抗不安薬、中枢神経刺激剤、抗うつ剤といった処方薬は、乱用すると依存に陥る可能性があります。

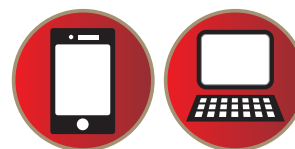
本来の目的以外での使用は欧米で広がっており、アメリカにおける鎮痛剤や鎮静剤、抗うつ剤の過剰摂取による死亡事故は、コカイン、ヘロイン、覚醒剤の違法薬物による死亡よりも多くなっています。

【向精神薬による事件例】

奈良市の40歳男性の薬剤師が、インターネットで向精神薬を大量に不正転売。同薬剤師から購入した50代の女性がさらに転売し、兵庫県内の男性を含む少なくとも4人が服用後に中毒死した。



! スマホ・ケータイ・インターネットからの誘いに乗らないように



アクセスの容易性、匿名性などから、不特定多数に対する薬物の密売広告がインターネットに掲載されています。

手口は、ネットの掲示板に「S0.2g1万」などと掲載し、メールなどで連絡し、取引するものです。

- 迷惑メールで覚醒剤(隠語で「S」や「スピード」)や大麻(隠語で「クサ」「93」)を売りますなどと誘ってきます。

≫ フィルタリングをかけてブロックをしましょう

≫ 怪しいサイトにはアクセスしないこと

- メール本文中に記載された「URL」や「ここをクリック」の文字をクリックしないこと。

≫ 迷惑メールは開かずにすべて「削除」しましょう

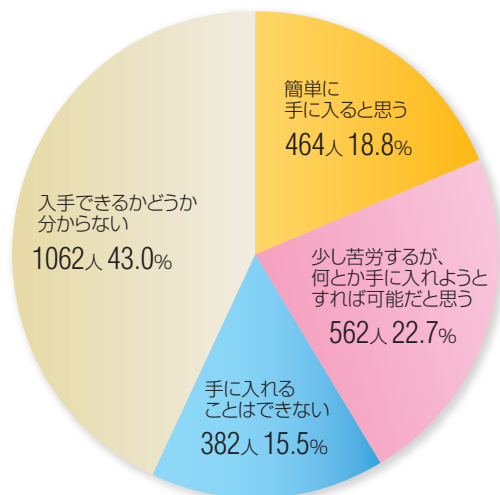
！保護者・教育関係者の皆様へ

インターネットを介した薬物の売買も横行している中、薬物は青少年にとっても非常に身近になってきています。ほとんどの子どもたちは薬物の有害性について認識しているものの、甘い考えを持っている子どもたちもいます。子どもたちが薬物に誘われたときに、自己判断で「NO!」と断れるように、大人の皆様からぜひ薬物の危険性・有害性を伝えてください。

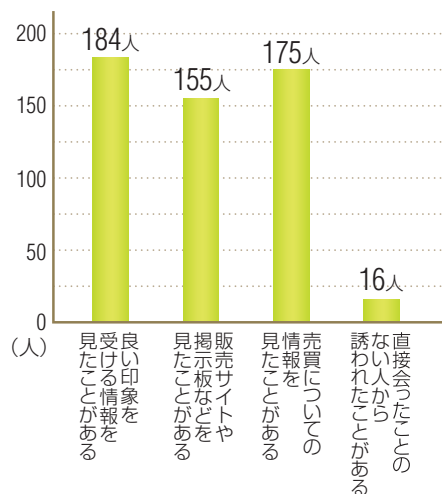
【中学生の危険ドラッグについての意識調査】

※2015年9月～2015年12月 日本薬物対策協会
東京都、埼玉県、千葉県の中学生2,471人調査
※未回答あり。②は複数回答。

① 危険ドラッグについてどれくらい身近に感じるか？



② インターネットの「危険ドラッグ」情報に関して



！薬物乱用から子どもたちを守るために

- ① まずは薬物について子どもと話し、真実を伝える機会を持ちましょう。薬物の正しい知識を伝えるのは、大人の役目です。
- ② 子どもとのコミュニケーションを普段から大切にしましょう。子どもの話を聞き、受け止め、考えを共有できる関係を作ることから、子どもの自尊心が育ちます。
- ③ インターネットを介した薬物売買も横行しています。日頃からインターネット使用に関するルールを親子で話し合い、子どもが決められたルールを守るように手助けしていきましょう。
- ④ 生活習慣や環境を良くするために、大人が良い手本となり、目標に向かって生きる子どもを助けましょう。
- ⑤ 薬物のない安全・安心な社会づくりに向けて、地域や学校などと連携して、地域社会に家族ぐるみで貢献しましょう。



7月は 青少年の非行・被害防止全国強調月間

内閣府

～誘惑に負けないで、私たちの大事な未来を守ろう～

詳しくは [非行・被害防止月間](#) [検索](#)

1. 出会い系サイト・児童買春・児童ポルノに関わらない
2. 危険ドラッグなどの薬物乱用、飲酒、喫煙、万引きをしない
3. 誘惑に負けそうになったら、まわりの人に相談する

「安全・安心の街に」Y読売センターは地域の防犯活動を推進しています



YCは「子ども110番の店」に登録しています



配達集金の際、不審者に注意します



警察署の協力を得て防犯チラシ等を配布します



配達集金とは別に町内を巡回しています

ポークンくんは安心して暮らせる街づくりを応援します

発行／全国読売防犯協力会
〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1
読売新聞東京本社販売局 販売企画調査部内 03-3216-9024

1606/2830M

Y読売 あなたの街の読売センターからお届けしています

